

# 週刊 タバコの正体

下の写真は、中国の大気汚染の状況を伝えるニュース画像です。うっすら自動車の影が見えるのがわかりますか。今、中国はこんなに深刻な大気汚染が進んでいます。工場や自動車の排気ガスが大気を汚染しているようですが、そんな汚染物質が「PM2.5」と呼ばれているのを知っていますか。汚染物質の正体が直径2.5マイクロメートル(千分の1mm)の微粒子なので、こう呼ばれています。

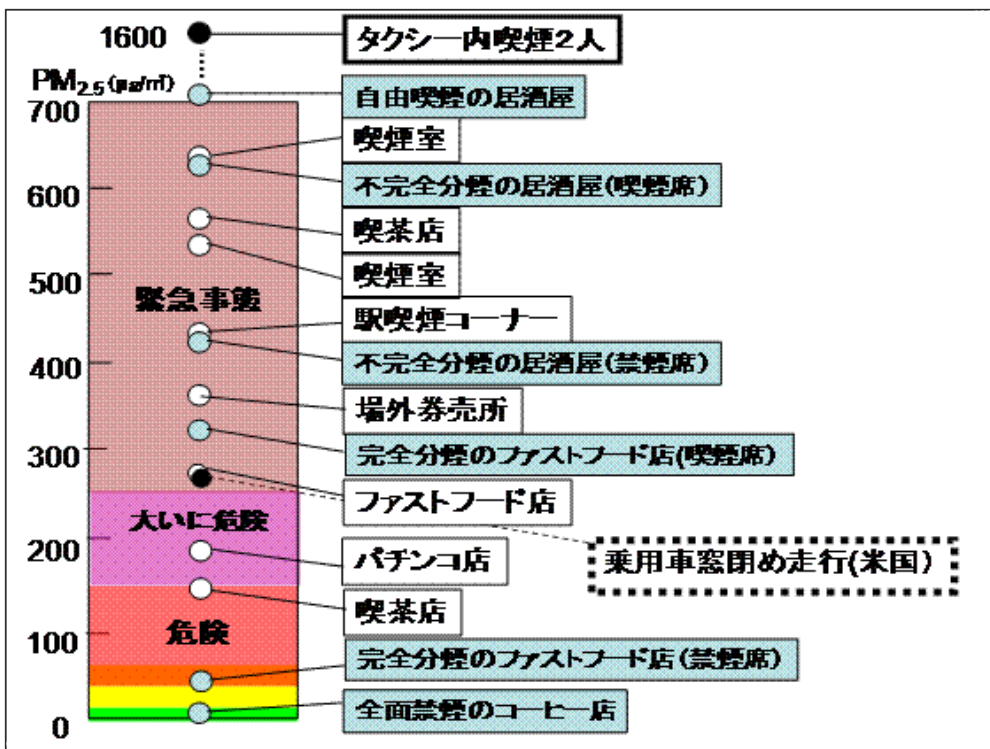
PM2.5はものすごく小さく身体に悪影響を与えるので、その粒子濃度が高くなると危険な状態となります。下のグラフはその危険度を表したもので、左端にある数字が粒子濃度を示しています。ちなみに写真が撮影されたこの日、北京市のPM2.5の粒子濃度は $300 \mu\text{g}/\text{m}^3$ だったそうです。グラフに照らし合わせると、“緊急事態”の範囲です。



2013年9月 NHK ニュースから

じつは、タバコの煙の粒子も典型的なPM2.5なのです。だからタバコの煙の濃度が高い場所は、中国の大気汚染と同じように危険な状態なのです。グラフを良く見ると、窓を閉めた自動車でタバコを吸うとその粒子濃度は $300 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 近辺です。ということは、先ほどの北京とほぼ同じなのです。

さらに、喫煙室では $500 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以上、居酒屋では $700 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以上、タクシー内で二人も喫煙すれば、 $1600 \mu\text{g}/\text{m}^3$ という桁違いに大きな値になってしまうのです。



日本禁煙学会「受動喫煙ファクトシート」から

いかがですか、タバコの煙は大気汚染よりもはるかに危険なのです。こんな事情は、多くの人の健康を守るために、より多くの人を知っておくべきだと思いますか。

産業デザイン科  
奥田 恭久